

適正利用・エコツアーリズム検討会議および ワーキンググループからの報告

1. 経過報告

<ワーキンググループ> 第1回：令和4年（2022年）8月26日、第2回：令和4年（2022年）10月27日、第3回：令和5年（2023年）2月1日開催

（1）第2期長期モニタリング計画について

- ・科学委員会で整理している枠組みに基づき、モニタリング項目の位置づけや評価基準について見直しを行いました。
- ・他のWGと合同で評価することになっている海鳥やヒグマの個体数の変動などについては、自然環境に係るモニタリングの評価は他のWGが担当し、本WGは利用に関する側面からの評価を担当することが適切とされました。
- ・特に評価項目F（評価対象は環境圧力・観光圧力）に紐付けられているモニタリング項目のうち、ヒグマWGと合同で評価する項目を整理した結果、「利用者の問題行動がヒグマの行動に与える影響」は引き続き評価項目Fの中で両WGで評価することとし、知床半島ヒグマ管理計画に基づく管理状況全般を評価する内容は、評価項目Lを新設しヒグマWGが評価することとしました。
- ・以上、事務局の提示した案に合意しました。なお、担当する「関係者等」の記述は確認をしてもらうよう留保しました。

（2）知床世界自然遺産地域管理計画の見直しについて

- ・世界遺産の価値、現状、課題はそれぞれ項目立てを別にして記載すべきであることや、遺産の保全管理に当たっては地域の参加を得て連携協働していくことを明確に示すこと等の意見がありました。
- ・また、適正利用に係る項目について、安全面について言及する必要があるという意見が出されました。

<検討会議> 第1回：令和4年（2022年）10月27日、第2回：令和5年（2023年）2月1日開催

（1）知床エコツアーリズム戦略の運用状況

提案の承認・検討状況は以下のとおりです。

案件名	提案者	運用状況と課題
赤岩地区 昆布ツアー (羅臼昆布の歴史は知床岬にあり -知床岬399番地上陸ツアー-)	羅臼町 観光協会	半島先端部での文化資源を活用した教育目的のツアーとして2016年の検討会議で試行合意。5年間の試行後、2021年度第1回検討会議において本格実施のためにいくつかの条件を整理し再度了解を得ることとされていました。 しかし、2022年度に本格実施に向けて再検討したところ継続的に行うには課題が多く対応が困難であると判断されました。 そのため、第1回検討会議において、事業継続を断念し、当該実施部会を解散することが示されました。 今回の提案・検討によって得られた結果や課題は、知床のエコツアーリズムにおいて普遍的かつ重要なものとして評価・共有されることとなりました。また将来的に新たな提案者が出た場合も、今回までの試行や実施条件などを尊重し検討を行うこととしました。

(2) 個別地域における取り組み状況と課題

1) 厳冬期の知床五湖エコツアー事業

- ・冬期閉鎖されていた道道知床公園線を除雪し、人数制限、ガイド同伴のうえで、静寂性を保って冬期の知床五湖をまわるツアーを実施しています。
- ・2021年度は新型コロナウイルスの流行等を受け規模を縮小し、2022年1月29日から3月14日までのうち41.5日間実施しました。期間中利用者数は1,382人（うち外国人利用者数122人）であり、コロナ禍以前の平成30年と比較して約50%に留まりました。
- ・2022年度はコロナ禍以前の日数に戻し、2023年1月21日から3月21日までの60日間でツアーを実施中です。

2) 知床五湖における利用調整地区制度の運用

- ・昨年度より継続して、植生保護期（レクチャーのみ）とヒグマ活動期（ガイド同行必須）の2つの制度で運用しています。利用調整期間（4/20～11/8）の地上遊歩道立入認定者数は46,333名（前年比98%）で、コロナ禍前と比較すると7割程度の入込状況となりました。利用者の減少が複数年続いたことから、運営費や実施体制に課題が生じています。
- ・一方でヒグマ活動期（5/10～7/31）に注目すると、2021年度は7,199名（前年比171%、コロナ前の5割程度）、2022年度は10,511名（前年比145%）となり、徐々にコロナ禍前の数字に戻りつつあります。
- ・地上遊歩道におけるヒグマ遭遇件数について、2022年度については9月末時点の集計で89件（ヒグマ活動期48件、植生保護期34件）、ツアー中止件数は9件と、ヒグマ活動期は過去2年と同程度でしたが、植生保護期は9月以降ヒグマとの遭遇が頻発（33件で、9月としては制度開始以来最多）し、閉鎖の割合が昨年より大幅に高くなっています。一方で、2021～2022年度（9月末時点）ともに地上遊歩道での利用者との危険な遭遇事例はありません。
- ・一湖湖面において拡大傾向にあるスイレン（外来種）の駆除について、今後調査や対応について検討予定です。

3) カムイワッカ地区における取り組み

(ア) カムイワッカ地区自動車利用適正化対策

- ・5月1日～5日および7月16日～7月18日の間、交通規制を行わず、既存路線バスに加え知床自然センター～知床五湖間を往復する臨時バスを増便（通常6往復+臨時便6往復）する乗り換え促進事業を実施しました。バスの利用者は5月が336人（2021年度は4日間運行で156人）、7月が52人となりました。両月ともに想定の混雑は発生しませんでした。
- ・8月7日～16日の10日間、マイカー規制およびシャトルバスの運行を実施しました。規制区間は例年同様の知床五湖～カムイワッカ間としました。期間中のバス乗車人数は3,548人（2021年度は5,500人）でした。
- ・9月30日～10月2日の3日間、野生動物とのあつれき対策、新たな観光コンテンツの創出、地域の二次交通網の検討などを目的として、ホロベツ地区（知床自然センター）からの車両規制とシャトルバス（ナショナルパークシャトル）の運行を実施しました。3日間天気は安定していましたが、バスの延べ乗車人数は1,780人（昨年同期比：72%）となりました。

(イ) カムイワッカ湯の滝一の滝以奥の再利用検討事業

- ・2021年度にエコツーリズム検討会議において事業承認を受けた当事業は、試行事業の2年目

として、試行A（ガイド引率型）として15日間、試行B（個人利用型）として最大23日間を実施することを計画しましたが、4月23日に発生した海難事故を踏まえ安全管理に関してより慎重に対処することが求められると判断し、今年度の事業の実施を見送ることとしました。

- ・ただし、有料シャトルバス運行実験と連動し、閉鎖区内での目的性の高い自然体験コンテンツを確保するため、9/30～10/2の3日間に限り、現地補助員6名を配置して試行B個人利用型を実施することとし、3日間で85名（昨年度比56%）が参加しました。
- ・斜里町から2022年11月に実施した落石調査の報告があり、下部区域も上部区域と同様の落石の危険性が一定程度あることを認知するに至り、これまでの下部区域における「自由利用」の維持は困難との説明がありました。
- ・一方で2年間の試行事業による成果を踏まえ、一定の利用を維持するために両区域を統合して試行事業の対象区域として扱う案が提示され、総論については同意を得ました。運用体制等の詳細については今後カムイワッカ部会で協議していくこととしています。
- ・結論として、利用人数は減りますが、管理下の利用を徹底することにしました。なお、制度の持続可能性については、利用料金を上げることで事業維持が可能か計算中です。

4) ウトロ海域におけるケイマフリをシンボルとした協働の保全活動

- ・2022年度は4月の知床遊覧船の事故を受け、観光船を利用した活動（大型観光船おーろら号での海鳥解説トーク・小型観光船による海鳥サンセットクルーズ・各ホテルでの海鳥トーク）を自粛しましたが、海鳥WEEK特別展およびインスタライブを実施しました。
- ・知床サスティナブルウィーク（2022年9月30日～10月10日うち出展は3日間）、大阪自然史フェスティバル（2022年11月19日～11月20日）と根室バードランドフェスティバル（2023年1月28日～1月29日）に出展し、クイズラリーやグッズの販売、オリジナル海鳥タンブラー作り等の体験を通じて海鳥の普及啓発や取組の情報発信を行いました。
- ・ケイマフリの確認個体数が303個体となり、今までになく回復しました。その一方で営巣地へのシーカヤック等の海のアクティビティ利用によるアクセスについて問題視しており、今後、普及啓発や情報共有など関係者による対策の検討をしていきます。

5) エコツーリズム検討会議とエコツーリズム戦略の今後

- ・エコツーリズム検討会議の設置と運用は、戦略本体・事務取扱要領など複雑になっているので今後整理します（なおその際に委員任命にかかる行政上必要な規約と会議体の機能や運営規程は別に整理します）。
- ・知床世界自然遺産地域管理計画の見直しとも連携し、エコツーリズム戦略に関わる内容に改定や更新が行われた場合には、それらを踏まえてエコツーリズム戦略内容の見直しを進めます。
- ・エコツーリズム戦略そのものの見直しは、WGおよび検討会議で議論した上で決定します。

2. 今後の予定

<ワーキンググループ>

- ・遺産管理計画の見直しを主な議題として、引き続き年2回程度実施予定です。

<検討会議>

- ・知床エコツーリズム戦略の運用をはじめとする知床世界自然遺産地域の適正な利用及びエコツーリズムの推進を図るため、引き続き年2回程度実施予定です。

【参考】適正利用・エコツーリズム検討会議の仕組み

- ・適正利用・エコツーリズムに関する検討にあたっては、専門家による意見交換の場であるワーキンググループのほか、地域の関係団体が参画する「適正利用・エコツーリズム部会」（地域連絡会議）と合同で 2010 年から「適正利用エコツーリズム検討会議」を合わせて開催しています。
- ・検討会議は、「保全と利用に関する調整を管理主体関係者と専門家、地域関係者が同じ立場で検討する場」として、知床世界自然遺産地域管理計画および知床エコツーリズム戦略に基づき、世界遺産地域の資源の適正な利用及びエコツーリズムを含む観光の持続可能化を推進しています。その基本原則は次のとおりです。
 - 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上
 - 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験の提供
 - 持続可能な地域社会と経済の構築